

高齡者をとりまくコミュニティの実態
(鹿児島県笠沙町の事例)正会員○古川 恵子²⁾
同 友清 貴和¹⁾
同 櫻井 亜衣³⁾

1. はじめに

出生率の低下と高齡者人口が増加を続け高齡化が進む現在、親世帯と子世帯の同居率は低下し、高齡者のいる世帯では、単独世帯及び夫婦のみの世帯の割合が大きくなってきている。

地方地域においては特に、過疎化と高齡化が進行し、高齡者人口が増加している。高齡者の多くは、長年住み慣れた地域で今後も生活することを望んでいる。

高齡者が自らの意志により、可能な限り自立した生活を営むには、行政による公的支援は不可欠であるが、現状ではじゅうぶんとはいえない。施設ケアから在宅ケアへと福祉行政が代わる中、高齡者をとりまくコミュニティが重要な要素となってくる。また、一方、地域の高齡者の多くは定住年数も長く、生活基盤を居住地に持ち、心身が健康であるため、地域社会の一員として社会活動に参加し役割を持つことが可能である。とりわけ、健康な高齡者が、身体的、精神的な面から支援を必要とする高齡者と関わりを持つことが期待される。

2. 研究の目的

高齡者の生活支援実態については、これまで農村住居の住まい方や福祉施設に関する分野、都市計画的分野で研究がなされてきた。本研究は以上の認識のもとに、高齡化、過疎化の進む農、漁村と山間地域を対象とし、それぞれの地域での人々のつき合いや社会参加等の実態から高齡者の生活を支える要因を考察するものである。

3. 研究の方法

鹿児島県は高齡化率 20.9%(総務庁)である。本研究では、高齡化率 37.8%の笠沙町を対象とした。笠沙町は、町内に農・漁・山村集落を抱える過疎町である。

40歳以上の全町民を対象に、社会活動への参加状況や、近隣、親戚とのつき合い、地域の人々と高齡者のかかわり方を、アンケート調査を行い分析・考察した。

4. 調査の概要

4-1. 調査方法

8月に3集落の高齡者数、9月に職業上高齡者と関わりのある郵便局の職員にヒアリング調査を行い、アンケート調査用紙を作成した。

① 調査期間は、平成10年11月。

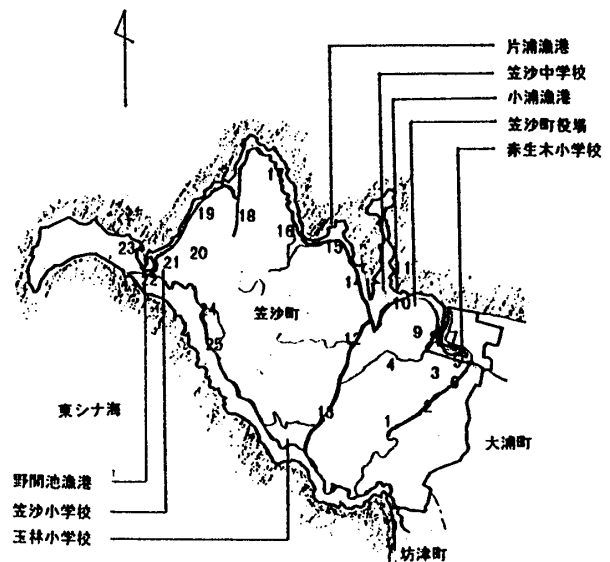
② 調査は、笠沙町に委託した。40～64歳は、1308名に配布。有効回収率 68.4%。65歳以上は、1478名に配布。有効回収率 85.5%。全体の回収率は 80.9%である。調査の回答を得られたのは、40歳から64歳が895人、65歳以上が1264人で、不明94人であった。

4-2. 調査地区の概要

笠沙町は総人口 3967人、高齡化率 37.8%で薩摩半島の西南端に位置する。北、西、南の東シナ海に面する一体は典型的なリアス式海岸が続き、25の集落からなる。町の総面積の 62.7%を山林が占めており、一部に平坦地があるほかはほとんど傾斜地で、季節風も強い。

【表1】笠沙町概要

人口	3967人	高齡化率	37.8%
40～64歳人口	1371人(34.6%)	第一次産業人口	34.1%
65～74歳人口	867人(21.9%)	第二次産業人口	22.9%
75歳以上人口	634人(16.0%)	第三次産業人口	42.9%



地図中の番号は、集落の位置を示すものであり、

集落名は【表3】を参照。

【図1】笠沙町集落配置

1)鹿児島大学教授・工博 2)鹿児島女子短期大学・教授 3)鹿児島大学大学院生

4-3. 調査項目と主な調査結果

今回の調査項目と調査結果（単純集計）は以下のとおりである。

【表2】 調査結果概要

調査項目	回答項目	人数(%)	調査項目	回答項目	人数(%)
年齢	40~54歳	396 (17.6)	子どもの有無	いる	1948 (86.5)
	55~64歳	499 (22.1)		いない	271 (12.0)
	65~74歳	755 (33.5)		不明	34 (1.5)
	75歳以上	509 (22.6)	別居の子どもがいる人	集落内	39 (6.9)
	不明	94 (4.2)		町内	37 (6.5)
性別	男性	870 (38.6)	40~64歳	町外	62 (11.0)
	女性	1352 (60.0)		県内	258 (45.7)
	不明	31 (1.4)		県外	169 (29.9)
				不明	0
職業	公務員・会社員	227 (10.1)	別居の子どもがいる人	集落内	162 (15.3)
	農林水産業	354 (15.7)		町内	122 (11.5)
	自営業	129 (5.7)		町外	144 (13.6)
	無職	1432 (63.6)		県内	329 (31.1)
	その他	56 (2.5)		県外	302 (28.5)
居住年数	0~19年	362 (16.1)	親類の有無	いる	1961 (87.0)
	20~39年	441 (19.6)		いない	225 (10.0)
	40年~	1433 (63.6)		不明	67 (3.0)
	不明	17 (0.8)		親類づきあい	よくつきあう
家族形態	一人暮らし	420 (18.6)	時々つきあう		337 (15.0)
	夫婦のみ	870 (38.6)	ほとんどなし		28 (1.2)
	夫婦と子ども	390 (17.3)	不明		109 (4.8)
	三世帯同居	166 (7.4)	親しい友人数	0人	96 (4.3)
自分と高齢者	151 (6.7)	1~2人		446 (19.8)	
その他	222 (9.9)	3~4人		634 (28.1)	
不明	34 (1.5)	5人~		989 (43.9)	
			不明	88 (3.9)	

5. 調査結果と分析

5-1. 調査対象者の属性

調査対象者の 56.1%が高齢者である。75歳以上の人の割合が最も大きい集落は、25(41.4%)で、17, 3と続く。(以下、集落名は表3参照) 居住年数40年以上が63.6%を占める。しかも、居住年数50年以上が、全体の50.9%をしめる。居住年数40年以上の割合が70%以上と大きい集落は、集落17, 18, 13, 24, 25, 19, 11, 20で、最も少ない集落の割合は22.2%である。居住年数0~19年は、7, 19にはいない。

男性数：女性数は1：1.55で女性が多い。職業は、無職が多い。家族形態は単身と夫婦のみ世帯の人が57.2%である。

5-2. 職業と無職の人の日ごろの過ごし方

半数以上の人々が畑づくりをしている集落がある。それは、1,3,4,12,13,19,20の内陸部の集落である。ただし、19は沿岸部である。魚とりをする人が多い集落は

9,14,11で、いずれも沿岸部である。日ごろの過ごし方は地理的環境と関係があることがうかがえる。

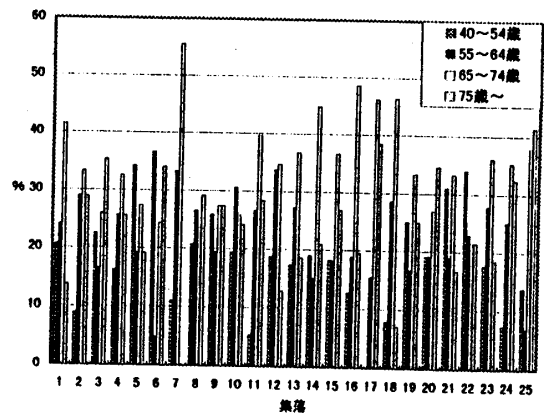
また、畑づくりをする人の割合は全体で最も多く、性別では女性が多い。男性で魚とりをする人は女性よりも多い。女性で魚とりをする人は1.2%いる。男性で何もしていない人が38.6%いるが、女性で何もしていない人は14.3%である。男女の違いがみられる。

年齢別にみると、40~54歳は公務員・会社員が最も多く、55歳以上は無職が最も多い。

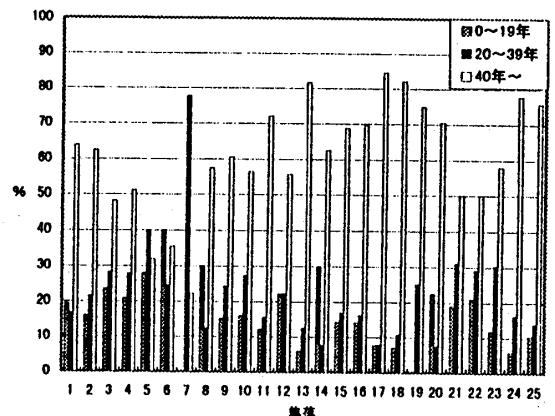
5-3. 社会参加状況

講・お墓・お寺参りなどが多い。年齢が高くなるほど、居住年数が長くなるほど、そして女性が男性より大きい割合で参加している。

集落別にみると、全体で参加率の最も高い講・お墓・お寺参りなどに多く参加しているのは、北側に海がある19, 17, 15と、町役場のある町中心部とは野間岳で隔てられている25, 24である。



【図2】 集落別年齢構成



【図3】 集落別居住年数

年齢別にみると、40～54歳は自治会・婦人会が最も多く約半数が参加している。55歳以上は年齢が高くなるほど講・お墓・お寺参りなどが増えて、他の集まりは減っている。なお、老人会への参加率は65～74歳の18.3%から75歳以上の41%へ急増している。男性が女性よりも多く参加するのは農業・漁業、商工などの組合である。なお、参加する集まりにデイサービスと答えた人が20人あまりいる。

5-4. 親しい友人とのつきあい

親しい友人数は男女とも5人以上というのが最も多く、親しい友人とのつきあいの場合は、前項同様、講・お墓・お寺参りなどが多く自治会・婦人会が続く。

集落別にみると、講・お墓・お寺参りなどは、19, 17, 18, 24で多い。前項で出た集落である。自治会・婦人会は、17, 20の集落が目立って多い。

年齢別にみると、40～54歳は趣味の会と運動・健康づくりの会が多く、55歳以上になると講・お墓・お寺参りが最も多く、加齢とともに割合が高くなる。逆に、趣味の会、教育・学習の会、運動・健康づくりの会は減っていく。性別にみると老人会に参加する女性の数は男性の3.7倍になる。

5-5. 近所づきあい

集落別にみると、17は親しいつきあいをしている人が76.9%と最も多く、19がこれに続く。そして両集落とも、親しいつきあいと世間並みを合わせると100%になる。

近所づきあいの程度では、全体の約90%が親しいつきあいか世間並みのつきあいをしており、また、性別では女性の方が親しいつきあいをする人が10%多い。

5-6. 近所づきあいの内容

集落別に、近所づきあいの特徴がみられる。その内容は【表3】のとおりである。近所づきあいをさまざまな内容で活発に行っているのは、18, 19, 15, 1, 2であるが、集落の多くの人が行っていることを表す最大値を、多くの項目にわたって示すのは18と19である。

日常的にだれでもできるつきあいとしての世間話、おすそわけ、近隣の掃除、心配ごとの相談、日用品の貸し借り、買い物などの手伝いと、非日常的な冠婚葬祭の手伝いがあるが、これらの内容についても、18と19はよくなされている。

【表3】 集落別近所づきあいの内容

(単位%)

	日用品の貸し借り	おすそわけ	近所の子どもの世話	近所の年寄りの世話	病気のときの世話	近所の留守番	心配ごとの相談	世間話	冠婚葬祭の手伝い	近隣の掃除	買い物などの手伝い	運動・健康づくり	趣味の会
全体	16.2	64.1	4.2	11.2	1.5	6.4	20.8	82.9	61.6	35.6	12	14	7.3
1 市嶋木場	18.2	54.5	12.1	24.2	57.6	3	39.4	81.8	69.7	33.3	15.2	42.4	9.1
2 松木場	13.5	63.5	0	23.1	44.2	9.6	28.8	71.2	73.1	21.2	19.2	59.6	17.3
3 笠石	24.6	69.6	1.4	23.2	10.1	0	13	85.5	65.2	47.8	2.9	42	4.3
4 山野	13.5	29.7	8.1	13.5	13.5	8.1	10.8	81.1	91.9	24.3	13.5	45.9	8.1
5 新田	22.7	56.1	7.6	13.6	13.6	4.5	25.8	87.9	54.5	21.2	10.6	19.7	18.2
6 並木	13.5	43.2	13.5	5.4	2.7	2.7	24.3	81.1	56.8	51.4	2.7	13.5	0
7 浜田	12.5	50	0	12.5	0	0	37.5	75	62.5	50	0	12.5	0
8 清水	3.3	36.1	0	4.9	9.8	4.9	19.7	88.5	42.6	18	6.6	6.6	3.3
9 笠松	17.9	50	0	8.9	19.6	1.8	16.1	69.6	39.3	10.7	5.4	5.4	7.1
10 上村	19.3	78.9	1.8	10.5	1.4	3.5	8.8	73.7	59.6	22.8	15.8	24.6	10.5
11 小浦	5.7	7.7	3.5	5.7	7.8	1.7	26.5	87.4	83.9	11.7	8.7	0.9	5.2
12 椎木	12	71.7	3.3	12	15.2	5.4	20.7	79.3	80.4	50	7.6	20.7	9.8
13 黒瀬	18.3	58.2	2.9	9.5	14.7	7	19.4	78	41.8	19.8	12.5	1.5	2.9
14 仁王崎	8	7.7	9.2	8	10.3	3.4	19.5	88.5	59.8	5.4	6.9	5.7	13.8
15 片浦	20.9	84.7	5.1	12.8	17.3	14.3	21.9	86.2	69.4	60.7	18.4	22.4	9.7
16 大当	14.1	57.7	2.8	9.2	5.6	9.9	16.2	83.1	54.9	53.5	11.3	17.6	9.9
17 高崎山	15.4	46.2	0	15.4	23.1	23.1	15.4	100	53.8	76.9	23.1	15.4	0
18 谷山	73.1	42.4	7.7	19.2	37.7	19.2	31.8	73.1	80.8	61.5	42.4	11.5	0
19 小崎	58.3	7.5	0	8.3	50	2.6	16.7	83.3	100	83.3	33.3	8.3	0
20 魚路	39.1	73.9	0	1.3	4.3	0	1.3	82.6	65.2	47.8	26.1	0	21.7
21 山神	33.3	60.6	12.1	12.1	30.3	0	33.3	69.7	69.7	51.5	21.2	6.1	9.1
22 野間池	13.2	47.9	4.9	9.7	6.3	6.3	12.5	79.9	79.9	31.9	5.6	4.9	6.9
23 峠	22.6	6.7	8.5	9.4	22.6	8.5	22.6	90.6	90.6	40.6	1.6	13.2	5.7
24 太郎木場	4.6	50.8	0	16.9	15.4	6.2	20	80	80	44.6	12.3	12.3	3.1
25 尾	0	66.7	0	22.2	3.7	0	18.5	88.9	88.9	3.7	14.8	3.7	0

年齢別にみると、世間話の割合は年齢が高くなるとともに大きくなっている。75歳以上は91.1%と格段に大きい。近所づきあいの内容は、世間話が最も多く(82.5%)、おすそわけ、冠婚葬祭の手伝い(61.6%)と続く。性別では、女性がおすそわけが多い。

5-7. 話し相手と話す頻度

全体で、店の人と話をする人が多い。よく話をする人と時々話をする人を加えると87%になる。次が医師・看護婦で、郵便配達の人、お寺である。

最も多くの人話し相手とする店の人とよく話をする割合の高い集落は、25, 24, 17である。また、医師・看護婦とよく話をするのは、17と25である。

【表4】話し相手と話す頻度 (単位%)

	よく話をする	時々話をする	ほとんどしない
郵便配達の人	17.4	55.8	26.8
新聞・牛乳配達の人	10.8	32.1	57.1
ヤマト・ガス配達の人	10.9	27.1	62
乗金(電気・ガス・水道等)の人	14.1	45.4	40
保険・銀行の外資員	12.9	32.7	54.4
店の人	46.2	40.9	12.9
移動販売の人	14.1	27.2	58.7
医師・看護婦	37.2	40.6	22.2
お寺	15.2	43.9	40.9
民生委員	17.9	31.5	50.6
その他	12.3	16.7	71.1

5-8. 外出行動と近隣関係

外出方法と目的についてみる。徒歩で出かけるのは、田畑や海の仕事などが最も多い。75歳以上では、買い物、子ども・親類・友人宅が最も多い。徒歩で行ける範囲に知り合いが多いことが分かる。自転車・バイクは買い物や銀行・郵便局へ行くのによく使われるが、年齢で見ると、75歳未満は、買い物に行くときが最も多く、75歳以上は銀行・郵便局行きに使われている。自動車は病院へ行くためと買い物によく利用されている。バスは病院へ行くために利用する人が圧倒的に多い。

自動車を自分で運転する人は多い。一方、近所の人に乘せてもらう人が、自動車利用者の12.6%ある。日ごろの近隣関係の親しさをうかがわせることである。集落別にみると、乗せてもらう人の割合が高いのは、25で、42.3%、あと24で29.1%、16で28.2%と続く。タクシー利用者が多いのは17, 20, 25である。

外出頻度の高い集落は17, 7, 20である。

【表5】集落の人数

	集落名	人数		集落名	人数		集落名	人数
1	市崎木塚	36	10	上村	62	19	小崎	12
2	松木塚	56	11	小浦	263	20	魚路	27
3	笠石	85	12	椎木	104	21	山神	42
4	山野	43	13	黒瀬	324	22	野間池	163
5	新田	75	14	仁王崎	107	23	峠	120
6	並木	45	15	片浦	237	24	太郎木塚	68
7	浜田	9	16	大当	148	25	純	29
8	清水	73	17	高崎山	13			
9	笠松	66	18	谷山	28			

6. まとめ

以上のことから、笠沙町における40歳以上の町民の生活実態が明らかになった。①無職の人の日常生活で、畑づくりや魚とりが多くされていることに、積極的な生活の様子がうかがえる。このことが人とかかわるきっかけとなっているか、今後検討していきたい。②地理的な関係のみられたものに、畑づくりと魚とりがある。社会参加の場については、③年齢や居住年数が多くなるに伴い、老人会への参加率が増え、また自治会・婦人会への参加から講・お墓参り・お寺などへの参加率が増えること、友人づきあいの場もまた同様であることがわかった。④集落別にみても社会参加の状況と友人づきあいの場について、両方とも大きい割合を示す集落があることが分かった。一方、⑤近所づきあいは全体的に親しくされているが、特に多面的に親しいつきあいをしている集落がある。⑥つきあいの内容は世間話、おすそわけが多いが、地方地域の特徴ともいえる冠婚葬祭の手伝いもされている。集落によって、つきあい方の違いがあることがわかったが、その理由を探る必要がある。また、話の相手に店の人を多くの人選んだ理由についても同様である。

⑦特に自動車に乗せてもらう人がある程度いることがわかったが、その人たちの日ごろのつきあいや生活についても今後検討していきたい。⑧今後、社会活動や人々の関わり方と、施設配置、リアス式海岸沿岸部や山間地という地理的な関連を全体的に検討する必要がある。

最後に、調査にご協力いただいた笠沙町の方々、並びに笠沙町役場の建設課と住民課の方々に厚く御礼申し上げます。

〈参考文献〉

1. 総務庁：高齢社会白書(平成10年版)、平成10年
2. 笠沙町：町勢要覧平成10年度版、1998年
3. 鹿児島県統計課